年頭所感

新年挨拶

大阪府知事　太田　房江

新年あけましておめでとうございます。

いよいよ2007年の幕が明けました。今年の干支は、「子（ね）」で始まる十二支の中でも一番最後を締めくくる「亥（いのしし）」。猪突猛進の字のごとく、私も知事２期目の総決算のこの年を、持てる力のすべてを出して、全力で駆け抜けてまいりたいと思います。

今年は「アジアのにぎわい都市・大阪」をしっかりと定着させ、“再生から成長へ”とアクセルを踏み込んでいく正念場の年です。

夏には「世界陸上2007大阪」が大規模に開催され、これを皮切りに、秋には世界各地の華僑（中国系企業経営者）が一堂に会する「世界華商大会」や、大阪府が呼びかけ人となって、アジア主要都市の首長が大阪に集まり、アジアの未来を話し合う「アジア主要都市サミット」が開催されるなど、アジアとの交流が盛り上がり、そしてかつてない強い絆で結ばれる年になると思います。もちろん、2008年の関西・大阪サミットの実現にも全力で取り組んでまいります。

また、これらの取組を後押しするかのように８月にはいよいよ、大阪・アジアのゲートウェイである関西国際空港の第２滑走路が供用開始を迎えます。我が国で初めての、長距離複数滑走路を備えた24時間フル運用の空港として、国際交流、観光、物流などさまざまな面で大きな役割を果たすものと期待しています。

この好機をとらえ、一気呵成（かせい）に大阪の魅力、活力を国内外にアピールし、アジアでの存在感を飛躍的に高めたい、このような決意で臨んでまいります。

21世紀に入り、東京一極集中がさらに進んでいると言われますが、外国の方々とお会いすると、大阪には大阪の魅力があるので、気にせずもっと自信を持って海外にＰＲしたらよい、と励まされます。私も確かに今、様々な分野で大阪はしっかりとした実力を貯えてきていると思います。

経済の分野では、全国平均を上回る数値で推移する有効求人倍率など、様々なデータが確実に大阪の景気回復を示しています。バブル崩壊後の厳しい経済情勢の中、官民一体となった地道な産業再生政策への取組が、着実に実を結んだ結果だと思います。

そして大阪経済は今、「再生」から「成長」へ、「回復」から「拡大」へと大きく転換を果たしてきておりますので、これを継続させ確実なものとするため、2006年度内に「大阪産業・成長新戦略」を策定し、新たな布石を打ってまいります。キーワードは「ものづくり」。大阪には、バイオやロボット、情報家電などの成長有望分野と、それを支える中小企業のものづくり基盤技術の集積があり、これらを連携させてその相乗効果により、大阪をものづくりの「スーパークラスター」にしていきたいと構想しています。

未来を担う子どもたちのための取組も手を緩めることなく進めていきます。

昨年はいじめを受けた中学生が自ら命を絶つという、あってはならない悲しい事件が発生し、胸の裂ける思いがいたしました。

人を思いやる心、そして何より生命を大切にするという、人として最も大切なことを、今一度見つめなおすよう、学校だけでなく家庭、地域が一緒になって取り組んでいく必要があります。

大人と子どもが本気で向き合おうという「こころの再生」府民運動をさらに広げ、“ほめる、笑う、叱る”を「あい言葉」に心温かい社会をめざしていきたいと考えています。

大阪の元気を実現するためには、府の行財政基盤をしっかりさせなくてはなりません。この10年、「財政再建団体転落の危機回避」を最大の目標に、全国に先駆けて数次にわたる厳しい行財政改革を推進し、「危機回避」という再建の“第１ステップ”を乗り切る目途が立ちました。そして、再生への“第２ステップ”として昨年、赤字構造からの脱却と次世代への負担を抑制するための道筋をつけるため、2010年度の単年度黒字などをめざす「大阪府行財政改革プログラム（案）」を策定しました。

歳入、歳出両面で徹底した改革努力をさらに続け、プログラムにかかげられた目標を確実に達成してまいります。

結びに、大阪府政の推進に、皆様の一層のご理解とご協力をお願いいたしますとともに、本年が皆様一人ひとりにとって実り多いすばらしい年となりますよう心からお祈りいたします。